

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを理解しており、事業所独自に「明るく、楽しく、元気よく」という理念を掲げ、日々の業務に反映させています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図るため、カンファレンスで再確認し、日々のサービスに反映できるよう努めています。理念は各居室や共有スペースに掲示しております。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	各居室や共有スペース内に理念を掲示し、入居者や御家族に理解して頂けるように努めています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣に住宅が少ないものの、散歩や外出時に挨拶を交わすなどして、ホームへの理解を深めていただけるよう働きかけています。町内会長や民生委員の協力もあり、地域の祭りに参加したり、また職員からの提案で、市内の小学生やボランティア団体の慰問など、地域との交流が図れてきております。	○ 今後とも地域資源を活用した取り組みを検討していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活用方法を職員に周知する取り組みを行っています。また、カンファレンスで改善策について検討しています。	○	評価結果について全職員で話し合う機会を増やしたいと考えています。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。町内会長、民生委員、行政担当者、入居者の御家族で委員を構成。ホームでの近況、行事、外部評価の報告等を行っています。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者が運営推進会議の委員となっており、日々の取り組みや評価報告等を行っています。また、事業所長が情報交換を行い連携を図っています。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会が確保できず、活用できる段階には至っていません。	○	外部研修等を通じ、制度を理解できるように努めていきます。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員はカンファレンス等で高齢者虐待法に関する理解を深め、虐待防止に努めています。	○	虐待発見時の対応方法についての取り決めを作成し、職員間での周知を図っていきたいと考えます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明書に基づいて入居者及び御家族に説明し、同意を得ています。契約内容変更時や退居時にも十分説明行っており、必要に応じ退居先の紹介等の支援も行っています。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が入居者からの意見や苦情を表しやすいよう、居室や共有スペースで話を聞いたり意見を求めたりしています。また、申し送りやカンファレンス等で話し合いをし、対応を検討する体制を整えております。	○ ご家族の協力ももらいながら、入居者の不満や苦情等が表出しやすいようにしていきたいと考えております。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームだよりを隔月で発行し、入居者個々の暮らしぶりやホーム内での行事、職員の異動をお知らせしています。健康状態の変化は直接御家族へ連絡し、相談しています。また、金銭管理状況は出納帳に記録し、郵送して確認して頂いております。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情受付窓口を設けている事を説明しているほか、面会時に意見や要望を伺って、今後のサービスに反映させています。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや日々の申し送りで意見や提案を聞く機会を設け、可能な限り業務に反映させています。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤は3人、夜勤は1人の介護員を配置しています。行事などに合わせ人員を増やすなどの調整をしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染の職員が異動したり、新しい職員が入った場合は利用者に十分説明をし、ダメージを最小限に抑えています。また、新しい職員や異動してきた職員には詳しく引継ぎを行っています。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は少ないものの、勉強する機会を確保できるよう努めています。カンファレンスでは外部研修の報告を行っています。内部研修は運営本部より担当介護支援専門員に来て頂き、随時行えるように努力しています。	○	全職員が平均的に研修に参加できるよう、内部及び外部研修の年間計画を作成していきたいと考えています。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームにて、リーダー会議を開催しており、定期的に情報交換を行っています。また、それらの情報はカンファレンス等で全職員に伝達しています。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は、出来るだけ心身をリフレッシュしてもらい、入居者と良好な関係を継続していけるよう努めています。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場の勤務状況を把握しています。年2回の健康診断を実施し、心身の健康を保つための体制を整え、個々の資格を活かせるよう配慮おります。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前に事前調査を行い入居者本人や御家族の困っている事、求めている事を確認し、受けとめ、契約に至った場合は職員間で情報を共有して、信頼関係を築いています。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査の際に入居者本人の状態、御家族の要望、必要とされている支援を見極め、当施設で対応出来るかを十分見極めた上で検討しています。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談受付時より面談や訪問を通じて、入居希望者及び御家族の意向を把握するよう努めています。また、コミュニケーションを深め、入居者本位のサービスとなるよう支援しています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に日々の生活を楽しんだり、一緒に考えたり、また職員が利用者に支えられたり教えられたりと、お互いに必要で大切な存在だ、という関係を築いていけるよう努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会、電話連絡等で入居者の生活状態を伝えるだけでなく、できる限り御家族の意向を聞き、一緒に入居者を支えていく関係を作るように努めています。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と御家族がより良い関係を保てるよう、双方の思いを理解し把握しながら対応しております。ホームだより等を通じて生活状況を伝えたり、適時電話連絡して、気軽に面会に来ていただけるように努めています。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親類の方にも気軽に面会に来て頂いたり、電話等で連絡できるように支援を行っています。また、希望に応じて入居者にとって馴染みの場所や知人がいる所に出掛けられるよう、御家族の協力を得て支援しております。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の人間関係を把握し、孤立しないよう職員が間に入るなどして、互いに支え合って生活していけるように努めています。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も入居者や御家族と築いてきた関係を継続するように努めており、入居者や御家族にもその旨を伝えております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で、入居者個々の意向や希望の把握に努めています。また、入居時や面会時には御家族から入居者の生活歴等について情報収集しており、全職員で情報の共有に努めています。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や個性等、入居者本人及び御家族から情報を得て把握に努めています。普段の生活に活かせるよう入居者のプライバシーに配慮しながら、親類や知人からも情報を得るようにしております。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者個々の生活リズムや暮らし方、出来る事、分かる事等を把握して、変化を見逃さないように努めております。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には入居者や御家族の意向を反映させるほか、カンファレンスで話し合った全職員の意見を取り入れながら、個別的、具体的な介護計画を作成しています。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期及び短期の目標を設定しており、期間終了時には見直しを行っています。また、職員が常に入居者の状況や希望に変化がないかを把握するよう心がけています。変化が見られた場合は随時見直しを図り、再アセスメントを実施しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりについて計画にそって実施したか、実践した結果がどうなったのか記載するように努めています。また、日々の暮らしの様子が、記録で把握できるように努め、職員間で情報を共有しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や御家族の希望にあわせ、外泊や買物等の外出支援を行ったり、法人内にある車輛を利用したバス旅行を行っています。受診の際はドライバーとスタッフで受診援助を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じて、町内会長や民生委員、教育機関に呼びかけを行っています。地域の祭事への参加や児童の訪問、避難訓練など協力しております。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他の事業者のサービスを利用している方はおりません。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所内で解決出来ない困難な事柄が発生した場合には、地域包括支援センターと連携して長期的なケアが行えるよう対応していきます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居者が別の場所に移り住む事のダメージを全職員が理解し、御家族及び移行先へ十分な話し合いや情報交換を行って、ダメージが最小限となるように努めております。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者へのプライバシーに十分配慮した声掛けや対応に努めています。個人情報、入居者や来訪者の目の触れない場所に保管しております。</p>	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者個々の状態に合わせ、説明や声掛けを工夫して意思表示できるように努めています。普段の状態を把握し、選択肢を複数出して入居者自身が自分で選べる様に努めております。</p>	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者個々の希望や意向、その日の体調等を考慮して対応するとともに、食事時間などは急がすことなく、個々のペースに合わせた声かけや見守りを行っています。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者の希望や個性を尊重して、好みに衣類を選んで頂いています。整容、乱れはさりげなく声掛けし、または介助しています。散髪は理容店の方にホーム随時来ていただくか、こちらから出向いて利用していただいております。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には入居者の希望を聞いたり、収穫した野菜などを食材として取り入れています。また、洗物や食材の下準備は入居者と一緒に行ったり、職員も同じ席に着いて食事をとり、声かけや介助を行っています。楽しく食事ができるよう配慮しています。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者個々の状態に配慮しながら、本人が望む嗜好品を楽しめる様に支援しております。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者個々の排泄パターンを把握し、その方に合った声掛け、誘導を行っています。また、常に入居者の羞恥心やプライバシーへの配慮を心掛けています。パット類を使用している方は尿意・便意の有無など、適宜職員間で話し合いをして使用の見直しを行っています。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を目安に入浴を促しており、可能な限り入居者の希望に合わせています。入浴時は羞恥心に配慮するほか、本人ができないところをさりげなくサポートしています。また、入浴を拒否する方に対しては、時間を置いて声がけするなどの対応をとっております。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	受診後や活動後、面会后など本人の状態を見極め、休息するよう支援しています。また、夜間の睡眠状態、日中の状態を把握し、御家族や担当医と相談して、眠剤の調整も行っています。寝付けない入居者には、職員が話し相手になったり、水分を促す等の対応を取っています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメント等を通じて入居者個々の生活歴を把握しながら、食事の準備や洗濯物たたみなどの家事、畑仕事を、その方の役割や楽しみ事として促しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方がホームで金銭管理をしていますが、御家族及び本人の希望にて、自己管理していただいても、買物で外出した場合は自分で支払いいただくよう支援しています。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や園芸作業を促すなど入居者の希望に合わせて、天候を考慮しながらできる限り外出の機会を設けております。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族といつでも外出できる体制になっています。ホームでは行事として、花見やお祭りなど外出する機会を作っています。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者に来る電話や手紙は取次ぎしております。また手紙を書いたり、電話をする場合はできる限り支援しています。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人など馴染みの人がいつでも訪問できるよう支援し、訪問しやすいような雰囲気作りに努めています。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の内容やその弊害について理解しており、拘束行わないケアを提供しています。やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合は、家族に状況を説明し同意を得る体制を整えています。	○	身体拘束に関する外部研修への参加を積極的に行っていききたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームに面した道路は交通量が多く、大型車の往来が頻繁で危険な為、ユニット出入口及び非常口をやむを得ず施錠しています。御家族にはその旨を説明し理解して頂いております。	○	運営本部と協議、調整した上で、施錠以外の方法を検討中です。また、無断外出時の近隣との協力体制についても、検討していきたいと考えております。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員が入居者を見守りやすい位置での記録、業務に努めています。特に目が届きにくい居室においては、随時安否確認を行っています。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態を把握した上で保管場所を検討しています。金銭や内服薬及び洗剤等は、入居者の手や目の届かない所に保管しています。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	カンファレンス及び日々の業務で事故防止の対策を検討、確認しています。事故報告書及び気づきシートを作成し、内容を話し合う事で事故の防止に努めています。また内容は、職員が常時閲覧できるようにしています。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成、掲示。また、カンファレンス等を通じて対応の確認を行っています。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署や防災関係業者の協力の下、日中の避難訓練を行っています。緊急連絡網を整備しているものの、夜間を想定した避難訓練は実施できていない状況です。	○	夜間帯を想定した避難訓練を実施していきたいと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時及び面会時に御家族に起こり得るリスクについて説明し、対応に努めています。状態変化が著しい場合には電話連絡、面会にて状況を報告。それに合わせて支援内容を適宜見直しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、本人の訴えや表情、顔色等をこまめに観察、記録しています。異変みられる場合は訪問看護師に相談するなどし、速やかに医療機関へ受診できるようにしています。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人のケースファイルに綴じ、内服状況の把握に努めています。内服変更時は申し送り等で対応、症状に著しい変化見られた場合は速やかに主治医に報告し指示をもらっています。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘が及ぼす身体への影響を理解しており、食事の形態を変えたり、散歩や掃除などの軽い運動を促す等の工夫を施しています。また、下剤を服用している入居者には、状態を見た上で下剤の量を調整して、なるべく自然排便が出来るように促しています。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後にうがい、義歯洗浄を行っております。入居者個々の状況に応じた口腔ケアを実施。夜間は義歯洗浄剤へのつけ置きを促しています。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分及び食事摂取量を把握し、記録に残しています。職員がカロリーを概算して、栄養バランスに十分配慮した献立を作成しています。	○	栄養士等の専門家に随時相談や助言をもらえる体制を整えていこうと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関する予防対応マニュアルがあり、随時更新しています。また、保健所主催の研修に参加しホーム内でも周知徹底を図っています。	○	感染症に関する情報を、御家族にも提供していく取り組みを考えています。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	次亜塩素酸水やハイターなどを用い、調理器具や食器類の消毒を実施。マニュアルを掲示して、職員への周知を図っています。食材はなるべく早目に使い切る様に心掛け、食材調達日にあわせて在庫確認、冷蔵庫整理を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花の鉢植えや動物の形をした置物を設置して、和やかな雰囲気作りを心がけています。また、ベンチを置き休息が取れるよう工夫しています。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに努め、心地よい共用スペースを保てるよう配慮しています。季節を感じて頂けるよう、掲示物にも工夫しています。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にテーブルと椅子を設けた食堂と、テレビが視聴可能なソファを有し、それぞれの区間を区切ることで、入居者同士が団欒できるスペースを確保しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居心地のよいスペースを確保、馴染みの家具や愛 用している物を持ってきてもらえるよう、御家族 に働きかけています。持ち込みの少ない入居者 には、本人の意向を聞きながら居心地のよい居室作 りを行っています。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	ホール内に温度計及び湿度計を設置して、適時温 度や湿度の確認を行っています。冷暖房機を使用 し温度調整しているほか、ホール内や居室の換気 も、窓の開閉及び換気扇で行っております。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホール及びトイレ、浴室に手すりが設置されてい ます。洗面所、トイレとも車椅子での使用が可能 となっています。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	浴室やトイレの入口に目印となる掲示を設け、混 乱のないように努めています。また、各居室に表 札と入居者本人の写真を貼付する等の工夫を行っ ています。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	玄関先に鉢植えとベンチを設置しています。ま た、敷地内に畑を設け、晴天時に園芸作業ができ るようにしています。物干しを屋外に設けて、職 員と一緒に作業ができるよう工夫しています。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者個々が持っている個性や残存機能を活かしながら「その人らしい」生活が営めるよう支援していきます。
ホーム独自の理念である「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに、よりよいサービスの提供に努めてまいります。